（別表第1）

サービス評価結果表

サービス評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人　愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	（回答数）	22名	（依頼数）	27名
地域アンケート回答数	7名			

※事業所記入

事業所番号	3890600145
事業所名	グループホーム小松の里
（ユニット名）	（ユニット①）　東通り
記入者（管理者）	
氏　名	伊藤元栄（大森　晋也）
自己評価作成日	平成30年2月3日

［事業所理念］	［前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果］	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
○入所者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。 ○一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。 ○主治医、協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します。 ○地域の人達と交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。 ○市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます。	○ 『風水害発生時に、ご利用者様と職員が安全に避難できる体制を整える事ができる』を目標に、運営推進会議で風水害時の協力をお願いして、近所の住民の方にも助けてもらえるように、自治会の集まりなど、参加させてもらい、協力をお願いした。 結果として、今年の夏に避難準備情報が出た時があり、地域の消防団の方が訪ねてくれたり、天候が回復した後に、地域の方から気にかけてくれた言葉を頂けたりと、緊急時に気にかけてもらえる状況となっていると感じた。また、近隣に高齢者の方々も多く、避難場所まで行くことが難しい地域の方へ、ホームを避難場所として利用して頂ける事も少し認識して頂けている。	とても清潔で整頓されている事業所は、気軽に立ち寄ることのできる雰囲気である。利用者の生活リズムに合わせて職員が支援しており、起床や就寝、食事、入浴のタイミングなどはユニット単位ではなく、それぞれの利用者の希望に沿った対応をしている。開設当初より玄関やユニット入口に鍵をかけないケアを実践し、利用者の外へ出たいという思いに最後まで寄り添っている姿が特徴的である。

評 価 結 果 表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。	◎		◎	多くの利用者の意向は家族から聞き取っており、友人等の面会がある利用者については友人等からも情報収集を行い、意向の把握に努めている。普段の支援の中で聞き取る情報も多く、月1回のユニット会において職員間で情報共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴を家族より聞き、その時の表情を見て、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に、家族や知人から聞いている。面会の頻度にもよるので、情報が集めにくい利用者もいる。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ユニット会で暮らし方への思いを話し、ケアプランの本人意向に記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	いろいろな職員の意見を聞きながら、決めつけないように把握している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	△	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。面会の頻度にもよるので、情報が集めにくい利用者もいる。			△	独自様式の「私ができること・私ができないこと・私のこだわりシート」を用いて、細かくアセスメントを行っている。また家族へ電話をかけたり、面会時に声をかけるなど、コミュニケーションを図り情報収集に努めているが、面会があまりない家族からの情報はあまり集められていない現状もあるので、こちらから呼びかけるなど、積極的な取組みが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントを行時に、こだわりシートを見直し把握している。出来る事を行ってもらい、過度に手伝わず、出来る事を見極める事に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時に対応した職員から、場面で不安や不安定になっている事を聞いている。その都度の記録も夜勤時間は細かく記載できている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等）	○	その時に対応した職員から、場面で不安や不安定になっている事を聞いている。ユニット会で話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に気づきを記載して、把握している。				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	生活歴や性格も参考に、検討している。家族や知人の面会が少ない方は、聞き取りが出来ていない時がある。			△	家族の希望で入居に至っている利用者が多く、自宅に帰りたいという希望が第一にありながらも、どうすれば事業所で快適に暮らしていけるのか、日々考えてアセスメントを行っているが、情報量が少なく物足りなさを感じるので、利用者が何を求めているのかという視点で、情報の収集に努めて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	できる能力を把握しながら、している事が毎日の生活で多くなるように検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランのニーズへ記載する時に、困っている内容も記載している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	ケアプラン作成前に、本人の思いや意向を確認している。訴えられない利用者の思いが反映されていない時がある。				家族とこまめに連絡や相談を行って介護計画に意見を反映させており、利用者のこだわりやこれまでの習慣を大切にしている。利用者のニーズを考える時には、その根拠として何に困っているからそのニーズが生まれたのかについても介護計画に盛り込むようにしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	面会時に家族へ聞き取りを行い、面会が少ない家族へは、ケアプラン作成時に、電話で意向を確認している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みの関係や、離床時の座席等、心地よいと思ってもらえる配慮をしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ケアプランに家族へ協力してもらう内容を提示している。地域の人たちの協力は得られていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	短気目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。			◎	介護支援専門員が介護計画を作成しており、内容については職員間で共有している。介護計画の短期目標については、達成状況を記録する用紙があり、利用者の日々の達成状況を確認しながら、積極的に取り組めるような優先度の高い項目を2項目程度選んで設定している。具体的な会話の内容や職員の気づきを毎日必ず記録することで、介護計画の内容を職員間で十分に共有できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	短気目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。月に1回の実施した結果を共有して、支援に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録にも、普段と異なる会話や行動などを記載している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	介護記録へ職員の気づきや、工夫を記載しているが、職員の気づきが、話合われるが、記録が少ない時がある。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に見直しをしている。			○	利用者の状況に応じて、必要なタイミングで計画の見直しを実施している。大きな変化が見られない場合も、毎月ユニット会議において現状確認を行っている。入院後など心身状態に変化がある時は、現状に合う計画になるよう見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	新たな要望や変化が見られない場合は、介護計画の期間に確認している。ユニット会で毎月1回は確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後の再入所時や、心身状態に変化がある時は、見直しをしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	ユニット会を基本としているが、朝の申し送り時や、その後のユニットメンバーで適宜話している。全職員が集まる会議は出来ていない。			○	事業所内の多目的ホールに職員が集まって月に1回勉強会を開催しており、その後各ユニットで会議を行っている。緊急性の高い内容については、朝の申し送り時に話し合う等工夫している。また話し合った内容等は申し送りノートに丁寧に記録し、職員間で情報共有できるようにしている。会議に参加できない職員は、会議録を回覧し確認するなど、情報の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換ができるように、茶話会のような感じで行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	可能な限り多くの職員が参加できるように工夫している。日中は難しく、夜間に開催となり、子供さんが小さい職員は参加できない。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を回覧して、申し送りノートも活用している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。			◎	家族からの要望や受診の報告、朝礼での管理者からの伝達事項、日々の支援の申し送りについては、ユニット毎にある申し送りノートに記載している。ノートを確認した職員はサインし、確認漏れがないよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2)日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その時にしたい事を、限られた職員数で、できるだけ叶えられる努力を日々行っている。全員に実施できない日もある。				起床や就寝、食事、入浴の時間は、利用者に希望時間を選んでもらい、臨機応変なケアに努めている。起床が早い利用者にも対応できるよう、早朝5時半より朝食の準備を整えるなど、入居前の利用者の生活リズムを大きく崩すことがないよう配慮している。職員は常に利用者の輪に入っており、食事の時間などテーブルを囲み皆が和気あいあいとなるよう雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	入浴、排泄、更衣、食事場面で、選んでもらう機会を作っている。不安や混乱がある利用者へは、好みを職員が勧めている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	不安が大きくならないように、できる限り意向を聞きながら、決めてもらっている。時間がかかる利用者が中心となり、支援できない時もある。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	△	本人の生活リズムを優先して、ゆっくりと生活できるよう支援している。時間がかかる利用者が中心となり、支援できない時もある。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が利用者の輪に入り、気の合う利用者とテーブルを囲み雰囲気づくりをしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップを行い表情の変化を見ながら支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	勉強会や朝の申し送りで、接遇マニュアルを意識して、言葉かけや態度を意識している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。	◎	○	○	法人の接遇マニュアルに沿った指導や研修を組織的に実施し、毎日目標を掲げることで日々の支援の中で常に意識できるよう工夫している。朝礼では目標を全員で唱和し、意識を高めている。気持ちに余裕がない時など、言葉に気をつけないといけない場合もあるので、職員会議等で話し合い皆で振り返る機会を設けるなど、業務の改善に努めて欲しい。居室には、必ずノックし確認してから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	小松の里の心がけ「あたたかく、さりげなく、気くばり目くばり」を意識しながら対応している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	他者から見えないような配慮や、露出が少なくなる配慮をしながら介助している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室前にノックを行い、入っても良いか確認してから出入りしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に会社と職員でプライバシー保護の書類を交わしている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	△	介護を行う場面でも、手伝ってもらう声かけや、教えてもらう態度で接している。職員が少ない時に、手伝ってもらわず、職員が行う時もある。				机の配置等を工夫し、利用者全員が快適に過ごすことができるよう配慮している。座る位置を固定しておく方が落ち着く利用者が多く、状況を見ながら臨機応変に対応している。職員が間に入ることでトラブルを未然に防ぎ、和やかな雰囲気になるよう心がけている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協同できる座席の配慮を行い、支えあう事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。（仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等）。	△	その時の気持ちを考えながら、心地よく関係が良好になるように、支えあう関係ができるように、座席の配慮を行っている。利用者の方で他者の行動に不満が多い方が、否定したり怒ったりと、攻撃的になるため、狭い空間では難しいと感じる。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因を考え、双方が安心できるように、声かけを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	×	入所前の面接で、関係を聞き取り、面会時に家族より、関係について情報を得ている。利用年数が長くなると、家族以外との関係が少なくなっている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所前の面接や、居宅ケアマネからの情報提供を参考に、毎日の会話からも、把握している。馴染みの場所へドライブで出かける利用者も数名いる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	住んでいた場所にドライブで外出し、馴染みの散髪屋、化粧品屋、息子宅など、希望される内容に応じて、支援している。限られた利用者に対して、希望が出る間は実施している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会場所を、本人の居室や談話室など、本人に選んでもらい、お茶を出して居心地良く配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	◎	出掛ける頻度に差はあるが、できる限り外出に付き合っている。希望が見られない方も、ホーム周辺の散歩や、屋内でもユニットの外に出る時間を作っている。	○	○	◎	外出時に使用できる車が3台確保されており、各ユニットで自由に外出することができる。利用者の状況によって外出先までの距離等を配慮し、お花見等に出かけたり、行きつけの美容室に行ったりしている。重度の利用者も含め、中庭に出て外気浴を行ったり、近くの散歩は日課になっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援は職員と家族以外、出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	中庭を中心に、外気浴を行っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	外出に頻度の差があるが、訴える方には頻回に、訴えがない方にも、季節によりお花見や紅葉を見に行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会で行動心理症状について理解して、普段と異なる行動が見られた時に、要因を考え取り除く方法を皆で話し合っている。				作業療法士や言語聴覚士の指導のもと、リハビリテーションを目的としたレクリエーションを実施したり、利用者の移動や移乗の時の介助方法について、指導を受けたりしている。利用者には自分のできることはひとりで行ってもらっており、職員がいつも見守り寄り添いながら支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	月に2回、自社のOTとSTが訪問して、セラピストの意見を参考に、日常の生活で運動に繋がる支援を意識している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	出来る事や出来そうなことの気づきを、職員同士で話し合い、できるだけ、行ってもらうようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所前の聞き取りも参考に、手先を使う事なども新たに行ってもらい、把握に努めている。				野菜の下ごしらえや洗濯物畳み、モップ掛け、掃除用雑巾の生地の裁断等、利用者が得意なことを担当してもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できることを、役割として行ってもらっている。食材の下ごしらえや家事仕事につながる事を、レベルに応じて行ってもらっている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	近隣を散歩しながら、すれ違う地域の方とあいさつを行っている。地域への参加が出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	着たい服を着ていただき、着こんでしまう方や肌着を上に着てしまう場合も、さりげなく着替えてもらっている。				入居前からの行きつけの理容室へ通っている利用者もおり、意向に沿った身だしなみの支援ができている。整容の乱れについては無理強いせず、さりげなく整えるよう努めている。意思表示できない利用者には家族から好みの服装などを聞き取り、笑顔でその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	近隣のパーマ屋に希望を伝えて、利用者が好まれる髪型になるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族に好みを聞いたり、本人に服を見てもらったりして決めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は、利用者がよそ行きと感じている服を選んで、着替えてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。（髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	○	さりげなく綺麗に整えている。間違えていても、無理強いしない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	近所のパーマ屋が馴染みの関係となり、希望を聞きながら散髪してくれている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族からも好みを聞き取り、本人が笑顔になるように配慮している。			○	
17	食事を楽しむことの できる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	下ごしらえから、音、匂いなど、食べる前から感じられる生活臭と、見た目や味など大切にしている。				利用者には調理の下ごしらえや後片付けなど、できる作業は一緒に行ってもらっている。利用者のリクエストを聞きながら栄養バランスにも配慮し、ユニット毎に献立を考えている。利用者の誕生日にはちらし寿司等のお祝いメニューにしたり、季節感のある旬の食材や昔懐かしいメニューを取り入れるなど配慮している。茶碗や湯呑、箸等の食器は、利用者が自分で選んだものを使っている。職員も一緒に食事をしながら見守り、必要があればさりげなく介助している。重度な利用者を含め、皆が調理の匂いや音が感じられるよう支援に努めている。栄養士等専門家からのアドバイスを取り入れるなどの取組みが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	◎	ユニットでメニューを考え、リクエストを聞きながら献立を作り、できる方には調理、後片付けを行ってもらえる支援をしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理の下ごしらえや、後片付けを出来る利用者へお願いしている。買い物、調理、盛り付けは混乱や不安が多く、利用者から文句も出るのでできない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の面接時に聞き取りして、毎日の会話で聞き取りしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	ユニットでメニューを考えて、アレルギーに気を付け、利用者のリクエストも聞いている。行事を感じられるメニューや年に1回の鰆解体なども楽しめている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼･嚥下等の身体機能や便秘･下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等）	○	嚥下や咀嚼を確認して、彩りや見た目を綺麗に盛り付けしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者のこだわりを優先して、利用者に選んでもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に同じ食事を食べながら、見守り食べ方を見ながら、さりげなく必要に応じて手伝いしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理のにおいや音を大切に、ユニット内で調理している。配膳後も、意欲が高まるように声かけを行っている。食べる時間もその時々で、利用者のペースで行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量は、十分にとれるように気を付けている。食事やお茶で補えない時は、メイバランスゼリーも活用している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	日中に水分摂取量が少ない利用者は、夜間におきられた時などを利用して、水分をとってもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	職員通しでバランスや調理方法を話し合い、ユニット単位でメニューを決めている。栄養士のアドバイスは受けていない。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒への予防や衛生管理は気を付けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながる事を、研修や勉強会で学び理解している。				毎食後、職員が付き添って口腔ケアを行っており、利用者全員の口腔内の健康状況について把握している。自分で歯磨きができる利用者や義歯外しのみ自分でできる利用者等もいるが、個々のペースに合わせ口腔内の清潔が保てるよう適切な支援に努め、必要時には訪問歯科診療を受けるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に、個別に気を付けるポイントを教えてもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	無理強いしないように、手入れを行っている。ポリデントも活用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会でトイレでの排泄の重要性や、おむつ使用による精神的負担を把握している。				利用者の行動を常に見守りながら、トイレに誘導するよう努めている。トイレには固定式の手すりの他、跳ね上げ式の手すりも設置されており、利用者の状況に応じて使い分けている。おむつ類は状況に応じて使用するものを検討し、少しでも安価で納入してもらえるよう業者と交渉している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事、水分量や、運動不足などの原因及び、便秘が周辺症状に影響することを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	訴えられない利用者の行動をみながら、排泄したい気持ちを予測している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	自己負担でおむつ使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	普段の生活場面を見直し、主治医とも相談して、改善できる点を模索している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の動きや訴えに応じて、行きたい気持ちを予測してトイレの案内をしている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自己負担でおむつ使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。朝と夕のユニット内での申し送りで、どの種類が良いか、変化がある時に検討している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	家族とも状況を共有してもらい、適宜使い分けできるように選んでいる。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	くだものや、ヨーグルト、ヤクルト、センナ茶など、できるだけ自然に出るように取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	毎日入れる状況を作り、入りたい気持ちになっているタイミングで入浴できるように支援している。	◎		○	入浴は緊急時に備えて受診可能な午後の時間帯が中心ではあるが、利用者が希望する時間帯にも入れるよう支援している。最低でも週2回は入浴できるよう努めており、希望があれば1日に2回入浴できるようになっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ入浴できるように、ゆっくり利用者のペースで入浴してもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できている事は見守りや声かけで入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	家族からも自宅での習慣を聞きながら、入りたい気持ちになるよう支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴介助の手順書を参考に、健康状態の把握をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	自宅での様子を本人及び家族へ聞き取り、ホーム内での眠れる時間を把握している。				利用者の生活リズムに合わせて支援しており、夜更かしをする利用者や早朝3時には起床する利用者等、個別ケースに合わせて対応している。利用者個々のリズムで気持ち良く朝が迎えられるよう努めており、薬剤に安易に頼らない支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昨夜の様子や日中の様子を確認しながら、気持ちよく眠れる工夫を検討している。空調や湿度も確認している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤は極力使用しないで、生活リズムが整えるように、日中の過ごし方、体調、水分量などを検討し、往診で主治医に適宜相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	夜間眠れないから寝させない対応は行わず、疲れ具合に応じて休む時間を取り入れている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの要望に応じて、支援している。年賀状は届いた方に利用者名で返事を送っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状にコメントを記入してもらい、書ける能力を把握している。電話も希望があれば、職員が番号を押している。自力で電話できる利用者はいない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスを使用して、部屋で電話できるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	封は開けずに、本人へ渡し、本人へ開けてもらい、希望があれば、代読している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	限られた利用者の家族から電話がかかっている。手紙も限られた家族より届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	不安や混乱が生じないで管理できる範囲に限り、家族と相談して所持、使用してもらっている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。いつでも買い物に行ける事は会話の中で伝えている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持することで、不安や混乱が強くなる場合は、家族と相談しながら、家族が管理するほうが、QOLが高まるか検討している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	常に状況に応じて、本人及び家族と相談して決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	基本的には、預からないようにしていて、ホーム立替で引き落とし、領収書を家族へ送付している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員人数と相談しながら、個別にできるだけ希望に添えるよう取り組んでいる。	◎		○	職員が利用者の思いを汲み取り、家族と協力し自宅に帰れる回数を増やすなど、利用者の意向に沿った支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	朝から夕方までは、施錠しないで、常に出入りできるようにしている。	◎	◎	○	玄関はきれいに整理整頓され花が活けられるなど、清潔感があり気持ちよく感じられいい雰囲気が漂っている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	△	作り自体が、利用者のイメージしている大正や昭和の雰囲気ではないが、食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。	○	○	○	リビングは明るく清潔で、対面キッチンになっているため、利用者からも食事の支度の様子が見られる等、家庭的な雰囲気になっている。掃除も丁寧に行っており清潔感が感じられる。調理の音や匂いが感じられるなど、生活感があり利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	利用者にとって不快にならないように、配慮している。掃除も丁寧に行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で、安心できる座席があり配慮している。ソファーを置いたり、玄関フロアーや中庭も活用している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないように配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と本人に、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族が持ち込めない時は、職員が付添い荷物を運んでいる。	◎		◎	できる限り、自宅で使っていた馴染みのものを居室に持ち込み、居心地よく過ごしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者が安全に使いやすいよう、手すりや車椅子専用トイレの手すり取替を行っている。			○	利用者が安心して暮らせるよう、廊下の手すりやトイレの車いす用の手すりを使い勝手のいいものにするなど、安全に万全を期して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	全てを排除するのではなく、極力間違いにくい環境にしている。間違っても、さりげなく取り除くなど、自尊心を気づ付けないようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	活動意欲を触発するように、ほうきや、回転モップ、新聞や広告、趣味の品など置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	鍵をかける事への弊害を職員全体で理解して、緊急性を除いては、常に施錠しないようにしている。夜間は防犯対策で、自宅と同様に施錠している。	◎	◎	◎	鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、夜間以外の施錠は行っていない。利用者が自由に外へ出られる環境になっており、その都度職員が様子を見守り、安全を確保しながら支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に十分説明して、納得してもらい利用が始まっている。また、安全確保のため、職員が付添いしている状況を面会時等で感じてもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	玄関に感知センサーを設置して、東通り職員が毎回、玄関を見に来る事を徹底して行っている。利用者の行動を予測して、出たい気持ちの時は、職員が付添い出かけて、落ち着いてもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
（4）健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の情報を共有して、アセスメントに病歴を記載し、把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	身体状況の変化や異常のサインは、カルテや申し送りノートを活用して、早期に発見できるよう努めている。しかし、気づきに差が生じている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	協力病院の西条市民病院へ連絡し常に担当看護師や医師に確認している。通院時にFAXした事も医師からの指示をカルテに閉じている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医の希望を聞いて、大半は協力病院の西条市民病院だが、専門医は併用して通院介助をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の希望を優先して、かかりつけ医と連絡相談を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前に家族へ説明して、通院時に家族も立ち合いできる配慮をしている。通院介助は施設で行い、家族が立ち会えない時は、受診後に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを入院当日に病院の担当看護師へ情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の洗濯物を施設が取りに行くことで、病院の関係者と話す機会が常にあり、情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃の連携はもちろんの事、病院と一緒に仕事以外でも、レクバレーやバトミントンで横の繋がりを密にしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	パート看護師に日頃の様子や、受診した結果など報告し、様態が気になる時は、確認を依頼している。パート看護師不在の時間は、かかりつけ医や外来看護師、休日など病院が休みの時でも、入院担当看護師に相談している。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力病院は夜間でも相談できるように配慮されている。また、同じ事業所内の他施設の看護師も相談に乗ってくれる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	朝昼夕に血圧、脈拍、熱を測定して、状況に応じて血中酸素濃度も測定しているので、変化には気づきやすい。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医師から指示がでた処方内容が詳しく書かれた書類を保管して、薬剤師の説明を聞いている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤師が一包化した薬を指示通り飲んでもらえるように、薬袋の色分けや、本人確認、飲み込み確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の状態と違ってきた場合に、常に副作用が影響していないか、追加された薬など影響がないか確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	長年飲み続けている服薬も、状態の変化が気になる時は、必要性があるが医師と相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。				事業所での看取りは実施していない。重度化した場合、利用者が安全で快適に過ごせる場所等について、家族と一緒には話し合いをしているが、今後は医師等医療関係者等も交え方針を協議するなどの検討を期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	環境面や医師の協力（死亡時の訪問など）が整わない。現状では、看取りができないと判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所前の説明や、状態の変化に応じて、出来る事できない事を十分に説明して、理解してもらっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。グループホームで環境面での改善は考えていない。同じグループ内で支える事や、近隣の施設を提案している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	最後まで責任を持って住み続けられるように、その時々で施設紹介などを説明している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会で知識を学び、昨年度に感染者が1名あった時に、実践で経験して、他のユニットにも経験を共有している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	勉強会で知識を学び、昨年度に感染者が1名あった時に、実践で経験して、他のユニットにも経験を共有している。日々の訓練は出来ていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	愛媛県の情報を元に、往診時に主治医から聞くなど、情報を早く入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	小学校や中学校の情報を、職員から得て、流行を把握している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関に感染予防の足底マットを敷き、面会者に手の消毒とマスク着用をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に日常の様子を伝え、一緒に支えてもらえるよう話をしている。				入居当初や利用者の体調不良時等に家族が泊まり込める環境を整備している。家族には年に数回行事の時に、ユニット毎に一緒に食事をしながら気軽に話し合う機会を設けている。毎月実施している家族への報告は、数か月毎に担当職員が交代することで、様々な職員からの気づきが伝えられるよう工夫している。面会時には家族に必ず声をかけ相談等がいつでもできるよう配慮しており、事業所の運営面のことや職員の異動等についても報告するほか、家族からの要望も聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時は部屋でゆっくりと他者を気にせずに、面会できるよう配慮している。家族の希望に応じて、宿泊される時もある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	△	全体の行事は夏祭りで案内している。単独の施設で、職員が接客できないため、行事は縮小している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	日常の様子を毎月1回、日常生活・ケアプラン実施状況報告書で郵送して伝えている。介護計画作成時は、遠方の家族へ電話して意向を確認している。2か月に1度作成している広報紙も郵送している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	電話や面会時に不安に感じている事を、職員から説明している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	入所後は、家族がしっかりと休息できて、気持ちに余裕が持てるよう支援している。在宅介護で大変と感じていた内容を聞き取り、ホームでの対応を伝え参考にしてもらっている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	運営推進会議参加者へ2か月の報告を行っている。面会時には、職員の異動や退職等を伝えている。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	×	家族会への参加がほとんど見られないため、行えていない。夏祭り行事の時のみとなっている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	ホームの職員体制と環境の説明を行い、利用者個別に起こり得るリスクを説明し、対策も伝えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	些細な事も報告して、面会時も気軽に話してもらえるように、職員から話しかけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所時の説明を丁寧に行っている。事例なども伝えている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退所の時も経済面や環境面、その時々の身体状況に応じて具体的な説明を行い、本人が安心できる所に住み替えできるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	契約時や変更時に丁寧に内訳を説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーや、地域の公民館で説明する機会を作っている。		○		自治会長の協力のもと管理者が地域行事に参加し、事業所の説明をすることで徐々に地域に認知されてきている。また、近くの中学校の体験授業として、継続的な訪問や交流があり、手紙や手づくりの新聞をもらうなどの関係が築けている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	自治会長代理の近所の方が窓口となり、集会所の集まりに管理者が参加させてもらっている。 ホーム周辺を散歩しながらあいさつをしている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	顔見知りの地域の方が増えるように、あいさつを行っている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。トイレを借りに、近隣の高齢者も立ち寄ってくれる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。トイレを借りに、近隣の高齢者も立ち寄ってくれる。犬の散歩も効果的に感じる。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	のりこ美容室の訪問がら、夏祭りボランティアの協力など、小松中学校生徒の訪問があり、行事の時に協力してもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	小松図書館より毎年、作品依頼があり、出展している。近隣の中学校生徒も毎年大勢来てくれて楽しんでいる。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	ヤマサンセンター（さわらの注文・夏祭りの氷など）、小松図書館、のりこ美容室、ウエス注文は小松のタオル屋に注文など、理解を拡げる働きかけを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	同じメンバーが集まる事が多いが、新規参加者を地域の方から募っている。	◎		○	運営推進会議には利用者や家族、地域の参加者を得ることができている。参加者を増やすため、多方面へ働きかける取組みを積極的に行うことで徐々に参加者が増えており、警察署や消防署などからも参加が得られている。外部評価結果等については、運営推進会議で報告し、防災対策等について会議の参加者に協力してもらっている。会議で出された意見や提案については、極力実践できるよう取り組んでおり、実施後には報告するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	外部評価の後に、報告している。防災対策は何度かテーマとして協力を仰いでいる。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	提案された事を実施して、実施した内容を報告している。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催後に次回予定日と時間を伝えて、メンバーさんから参加しやすい時間を聞いている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録は公表できていない。希望があれば、いつでも見てもらう事はできる。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	名札の裏に理念を入れて、いつでも確認しながら仕事ができるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外部評価前に家族へ理念が記載している書類を送付している。施設内に提示し、運営推進会議で伝えている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、必要な研修など受けられる配慮をしてくれている。				代表者は、男性の管理者や女性のユニットリーダー等、相談相手を自由に選んで気軽に相談できるよう配慮し、職員のストレスの軽減や離職防止に繋がるよう努めている。
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	キャリア段位制度を利用して、働きながらスキルアップできる取組を続けている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、給料面や手当など、特に頑張っている職員へ配慮してもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	○	代表者は外部との交友や研修に費用を惜しまず、行きたい研修に参加できるように予算を入れてくれている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレス軽減に向けて、管理者を集めお酒の場で、話を聞いてくれている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。				現在、欠員補充ができていないため、外部研修にはあまり参加できていないが、全職員が虐待防止に関する内部研修を必ず受講することで、手順や対応方法等について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りで振り返りを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。代表者へは、毎月管理職会で報告している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い点検している結果として、職員が離職する事が多いと感じる。不適切な対応は注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。拘束しない施設として意識している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	朝の申し送りや勉強会、ユニット会で適宜話し合うようにしている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居前から身体拘束の弊害について説明し納得の上で利用してもらい、面会時に状況説明と対策を家族へ説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	成年後見制度については、大まかに管理者から職員へ説明をしているが、深くは理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	管理者から家族へ対象となる制度の説明を行い、相談窓口の紹介や、詳しく説明できる社会福祉士を紹介している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや社会福祉士会、社会保険労務士と相談できる窓口を常に作っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急対応や初期対応の訓練を消防避難訓練時に、消防署立ち合いで行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットが起こる前に、ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットが起こる前に、ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成していないが、相談内容を職員が把握して、改善に向けてユニット会で事例が上がれば検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	内容を確認しながら、管理者が窓口となり、必要に応じて市役所への報告も行っている。会社の代表者や部長、総務部に報告して、会社としても方向性も確認している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	あまり事例がないが、苦情があれば、納得が得られる前向きな話し合いを行うように心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがないので、面会時に個別に会話して話しやすい雰囲気を作っている。			○	利用者が話しやすい雰囲気になるよう、家族の面会時を見計らって利用者と家族から一緒に意見や要望が聞けるよう機会を設けている。管理者は職員とは年2回面接を行っており、意見や要望等を聞くよう努め、業務に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがないので、面会時に個別に会話して話しやすい雰囲気を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	要望や苦情があれば、国保連や市役所が窓口となっている事を契約時以外にも伝える体制はある。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	年に数回、代表者は現場を見に来ている。毎月1回の管理職会議で現状を代表者へ伝えている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年に2回は、面接を行い、利用者本位の支援を確認している。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価はいつでも回覧できるようにしていて、全員で評価する時期は、昨年度より2年に1回となっている。				評価結果等については、運営推進会議で報告している。防災対策については、日頃から地域住民等会議の参加者に協力してもらっており、具体的な意見等をもらうなど、業務の改善に活かせている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	サービス評価の項目に沿って、グループホームらしさに向かってサービスできるように話し合っている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回、初めて地域の方の評価があるので、参考に目標達成計画を作成する。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で、防災対策について報告し、意見を頂いている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	達成目標の取り組み成果は、運営推進会議で報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	火災、風水害を中心にマニュアルを作成して、玄関フロアーに提示している。				地域的に水害が心配であり、過去の避難準備情報が出た時には、消防団の訪問や、地域住民からの声かけ等、支援や協力を得ることができている。避難所として活用してもらえるよう地域に働きかけている他、周辺の民家や店舗等に対して日頃より馴染みの関係がつくれるよう努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	作成している計画書に沿って、避難訓練をしている。主に夜間中心となっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者が点検に入り、消火設備の点検を行っている。非常食はホーム管理者と総務部で管理している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の他事業所の代表者と、年に1回小松中学校で集まりがあり、連携が取れるようにしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の主催する災害避難訓練に職員が参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	年に2回は集会所へ職員が出かけて、ボランティア活動の後で、認知症介護のポイントについて、地域の方と話し合う機会がある。				相談があまりないため、事業所のPRを積極的に行い地域の相談ニーズの集約にも努めるなどの取組みが望まれる。市や他の関係機関等と連携し、認知症カフェ等イベントを開催するなど、地域とのつながりを深めるような取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の方が相談に来られる事があり、対応している。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	地域の集まりは出来ていないが、災害時に避難場所として開放する事を、運営推進会議で提案している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	自社で行っている人材教育関係で、研修を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地域のイベントに職員が参加している。			△	

（別表第1）

サービス評価結果表

サービス評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人　愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	（回答数）	22名	（依頼数）	27名
地域アンケート回答数	7名			

※事業所記入

事業所番号	3890600145
事業所名	グループホーム小松の里
（ユニット名）	（ユニット②）　西通り
記入者（管理者）	
氏　名	伊藤元栄（大森　晋也）
自己評価作成日	平成30年2月3日

［事業所理念］	［前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果］	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
○入所者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。 ○一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。 ○主治医、協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します。 ○地域の人達と交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。 ○市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます。	○ 『風水害発生時に、ご利用者様と職員が安全に避難できる体制を整える事ができる』を目標に、運営推進会議で風水害時の協力をお願いして、近所の住民の方にも助けてもらえるように、自治会の集まりなど、参加させてもらい、協力をお願いした。 結果として、今年の夏に避難準備情報が出た時があり、地域の消防団の方が訪ねてくれたり、天候が回復した後に、地域の方から気にかけてくれた言葉を頂けたりと、緊急時に気にかけてもらえる状況となっていると感じた。また、近隣に高齢者の方々も多く、避難場所まで行くことが難しい地域の方へ、ホームを避難場所として利用して頂ける事も少し認識して頂けている。	とても清潔で整頓されている事業所は、気軽に立ち寄ることのできる雰囲気である。利用者の生活リズムに合わせて職員が支援しており、起床や就寝、食事、入浴のタイミングなどはユニット単位ではなく、それぞれの利用者の希望に沿った対応をしている。開設当初より玄関やユニット入口に鍵をかけないケアを実践し、利用者の外へ出たいという思いに最後まで寄り添っている姿が特徴的である。

評 価 結 果 表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面接時、入所直後F11:F181の会話、毎日の会話で把握に努めている。	◎		◎	多くの利用者の意向は家族から聞き取っており、友人等の面会がある利用者については友人等からも情報収集を行い、意向の把握に努めている。普段の支援の中で聞き取る情報も多く、月1回のユニット会において職員間で情報共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴を家族より聞き、その時の表情を見て、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に、家族や知人から聞いている。面会の頻度にもよるので、情報が集めにくい利用者もいる。電話での確認も行っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ユニット会で暮らし方への思いを話し、ケアプランの本人意向に記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	いろいろな職員の意見を聞きながら、決めつけないように把握している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。面会の頻度にもよるので、情報が集めにくい利用者もいる。ケアプラン見直し時に電話で確認している。			△	独自様式の「私ができること・私ができないこと・私のこだわりシート」を用いて、細かくアセスメントを行っている。また家族へ電話をかけたり、面会時に声をかけるなど、コミュニケーションを図り情報収集に努めているが、面会があまりない家族からの情報はあまり集められていない現状もあるので、こちらから呼びかけるなど、積極的な取組みが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントを行時に、こだわりシートを見直し把握している。出来る事を行ってもらい、過度に手伝わず、出来る事を見極める事に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時に対応した職員から、場面で不安や不安定になっている事を聞いている。その都度の記録も夜勤時間は細かく記載できている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等）	○	その時に対応した職員から、場面で不安や不安定になっている事を聞いている。ユニット会で話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	生活記録に気づきを記載して、把握している。				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	生活歴や性格も参考に、検討している。家族や知人の面会が少ない方は、聞き取りが出来ていない時がある。			△	家族の希望で入居に至っている利用者が多く、自宅に帰りたいという希望が第一にありながらも、どうすれば事業所で快適に暮らしていけるのか、日々考えてアセスメントを行っているが、情報量が少なく物足りなさを感じるので、利用者が何を求めているのかという視点で、情報の収集に努めて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	できる能力を把握しながら、している事が毎日の生活で多くなるように検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランのニーズへ記載する時に、困っている内容も記載している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	ケアプラン作成前に、本人の思いや意向を確認している。訴えられない利用者の思いが反映されていない時がある。				家族とこまめに連絡や相談を行って介護計画に意見を反映させており、利用者のこだわりやこれまでの習慣を大切にしている。利用者のニーズを考える時には、その根拠として何に困っているからそのニーズが生まれたのかについても介護計画に盛り込むようにしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	面会時に家族へ聞き取りを行い、面会が少ない家族へは、ケアプラン作成時に、電話で意向を確認している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みの関係や、離床時の座席等、心地よいと思ってもらえる配慮をしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ケアプランに家族へ協力してもらう内容を提示している。地域の人たちの協力は得られていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	短気目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。			◎	介護支援専門員が介護計画を作成しており、内容については職員間で共有している。介護計画の短期目標については、達成状況を記録する用紙があり、利用者の日々の達成状況を確認しながら、積極的に取り組めるような優先度の高い項目を2項目程度選んで設定している。具体的な会話の内容や職員の気づきを毎日必ず記録することで、介護計画の内容を職員間で十分に共有できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	短気目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。月に1回の実施した結果を共有して、支援に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	生活記録にも、普段と異なる会話や行動などを記載している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	生活記録へ職員の気づきや、工夫を記載しているが、職員の気づきが、話合われるが、記録が少ない時がある。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に見直しをしている。			○	利用者の状況に応じて、必要なタイミングで計画の見直しを実施している。大きな変化が見られない場合も、毎月ユニット会議において現状確認を行っている。入院後など心身状態に変化がある時は、現状に合う計画になるよう見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	新たな要望や変化が見られない場合は、介護計画の期間に確認している。ユニット会で毎月1回は確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後の再入所時や、心身状態に変化がある時は、見直しをしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会を基本としているが、朝の申し送り時や、その後のユニットメンバーで適宜話している。リーダー会でユニット代表者と管理者が確認している。			○	事業所内の多目的ホールに職員が集まって月に1回勉強会を開催しており、その後各ユニットで会議を行っている。緊急性の高い内容については、朝の申し送り時に話し合う等工夫している。また話し合った内容等は申し送りノートに丁寧に記録し、職員間で情報共有できるようにしている。会議に参加できない職員は、会議録を回覧し確認するなど、情報の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換ができるように、茶話会のような感じで行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	可能な限り多くの職員が参加できるように工夫している。日中は難しく、夜間に開催となり、子供さんが小さい職員は参加できない。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を回覧して、申し送りノートも活用している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。			◎	家族からの要望や受診の報告、朝礼での管理者からの伝達事項、日々の支援の申し送りについては、ユニット毎にある申し送りノートに記載している。ノートを確認した職員はサインし、確認漏れがないよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2)日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その時にしたい事を、限られた職員数で、できるだけ叶えられる努力を日々行っている。全員に実施できない日もある。				起床や就寝、食事、入浴の時間は、利用者に希望時間を選んでもらい、臨機応変なケアに努めている。起床が早い利用者にも対応できるよう、早朝5時半より朝食の準備を整えるなど、入居前の利用者の生活リズムを大きく崩すことがないよう配慮している。職員は常に利用者の輪に入っており、食事の時間などテーブルを囲み皆が和気あいあいとなるよう雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	入浴、排泄、更衣、食事場面で、選んでもらう機会を作っている。不安や混乱がある利用者へは、好みを職員が勧めている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	不安が大きくならないように、できる限り意向を聞きながら、決めてもらっている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	○	本人の生活リズムを優先して、ゆっくりと生活できるよう支援している。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が利用者の輪に入り、気の合う利用者とテーブルを囲み雰囲気づくりをしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップを行い表情の変化を見ながら支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	勉強会や朝の申し送りで、接遇マニュアルを意識して、言葉かけや態度を意識している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。	◎	○	○	法人の接遇マニュアルに沿った指導や研修を組織的に実施し、毎日目標を掲げることで日々の支援の中で常に意識できるよう工夫している。朝礼では目標を全員で唱和し、意識を高めている。気持ちに余裕がない時など、言葉に気をつけないといけない場合もあるので、職員会議等で話し合い皆で振り返る機会を設けるなど、業務の改善に努めて欲しい。居室には、必ずノックし確認してから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	小松の里の心がけ「あたたかく、さりげなく、気くばり目くばり」を意識しながら対応している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	他者から見えないような配慮や、露出が少なくなる配慮をしながら介助している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室前にノックを行い、入っても良いか確認してから出入りしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に会社と職員でプライバシー保護の書類を交わしている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	△	介護を行う場面でも、手伝ってもらう声かけや、教えてもらう態度で接している。職員が少ない時に、手伝ってもらわず、職員が行う時もある。				机の配置等を工夫し、利用者全員が快適に過ごすことができるよう配慮している。座る位置を固定しておく方が落ち着く利用者が多く、状況を見ながら臨機応変に対応している。職員が間に入ることでトラブルを未然に防ぎ、和やかな雰囲気になるよう心がけている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協同できる座席の配慮を行い、支えあう事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。（仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等）。	△	その時の気持ちを考えながら、心地よく関係が良好になるように、支えあう関係ができるように、座席の配慮を行っている。利用者の方で他者の行動に不満が多い方が、否定したり怒ったりと、攻撃的になるため、狭い空間では難しいと感じる。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因を考え、双方が安心できるように、声かけを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前の面接で、関係を聞き取り、面会時に家族より、関係について情報を得ている。電話でも確認している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前の面接や、居宅ケアマネからの情報提供を参考に、毎日の会話からも、把握している。定期的に家族と一緒に自宅へ戻られている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	季節行事として、希望を聞きながら、懐かしい場所への外出やドライブに出かけているが、頻度は少ない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会場所を、本人の居室や談話室など、本人に選んでもらい、お茶を出して居心地良く配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	◎	出掛ける頻度に差はあるが、できる限り外出に付き合っている。希望が見られない方も、ホーム周辺の散歩や、屋内でもユニットの外に出る時間を作っている。	○	○	◎	外出時に使用できる車が3台確保されており、各ユニットで自由に外出することができる。利用者の状況によって外出先までの距離等を配慮し、お花見等に出かけたり、行きつけの美容室に行ったりしている。重度の利用者も含め、中庭に出て外気浴を行ったり、近くの散歩は日課になっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援は職員と家族以外、出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	中庭を中心に、外気浴を行っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	外出に頻度の差があるが、訴える方には頻回に、訴えがない方にも、季節によりお花見や紅葉を見に行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会で行動心理症状について理解して、普段と異なる行動が見られた時に、要因を考え取り除く方法を皆で話し合っている。				作業療法士や言語聴覚士の指導のもと、リハビリテーションを目的としたレクリエーションを実施したり、利用者の移動や移乗の時の介助方法について、指導を受けたりしている。利用者には自分のできることはひとりで行ってもらっており、職員がいつも見守り寄り添いながら支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	月に2回、自社のOTとSTが訪問して、セラピストの意見を参考に、日常の生活で運動に繋がる支援を意識している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	出来る事や出来そうなことの気づきを、職員同士で話し合い、できるだけ、行ってもらうようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所前の聞き取りも参考に、手先を使う事なども新たに行ってもらい、把握に努めている。				野菜の下ごしらえや洗濯物畳み、モップ掛け、掃除用雑巾の生地の裁断等、利用者が得意なことを担当してもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できることを、役割として行ってもらっている。食材の下ごしらえや家事仕事につながる事を、レベルに応じて行ってもらっている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	近隣を散歩しながら、すれ違う地域の方とあいさつを行っている。地域への参加が出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	着たい服を着ていただき、着こんでしまう方や肌着を上に着てしまう場合も、さりげなく着替えてもらっている。				入居前からの行きつけの理容室へ通っている利用者もおり、意向に沿った身だしなみの支援ができている。整容の乱れについては無理強いせず、さりげなく整えるよう努めている。意思表示できない利用者には家族から好みの服装などを聞き取り、笑顔でその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	近隣のパーマ屋に希望を伝えて、利用者が好まれる髪型になるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族に好みを聞いたり、本人に服を見てもらったりして決めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は、利用者がよそ行きと感じている服を選んで、着替えてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	○	さりげなく綺麗に整えている。間違えていても、無理強いしない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	近所のパーマ屋が馴染みの関係となり、希望を聞きながら散髪してくれている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族からも好みを聞き取り、本人が笑顔になるように配慮している。			○	
17	食事を楽しむことの できる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	下ごしらえから、音、匂いなど、食べる前から感じられる生活臭と、見た目や味など大切にしている。				利用者には調理の下ごしらえや後片付けなど、できる作業は一緒に行ってもらっている。利用者のリクエストを聞きながら栄養バランスにも配慮し、ユニット毎に献立を考えている。利用者の誕生日にはちらし寿司等のお祝いメニューにしたり、季節感のある旬の食材や昔懐かしいメニューを取り入れるなど配慮している。茶碗や湯呑、箸等の食器は、利用者が自分で選んだものを使っている。職員も一緒に食事をしながら見守り、必要があればさりげなく介助している。重度な利用者を含め、皆が調理の匂いや音が感じられるよう支援に努めている。栄養士等専門家からのアドバイスを取り入れるなどの取組みが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	◎	ユニットでメニューを考え、リクエストを聞きながら献立を作り、できる方には調理、後片付けを行ってもらえる支援をしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理の下ごしらえや、後片付けを出来る利用者へお願いしている。味噌汁や片づけを出来る利用者に作ってもらい、傍で見守っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の面接時に聞き取りして、毎日の会話で聞き取りしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	ユニットでメニューを考えて、アレルギーに気を付け、利用者のリクエストも聞いている。行事を感じられるメニューや年に1回の鰆解体なども楽しめている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼･嚥下等の身体機能や便秘･下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等）	○	嚥下や咀嚼を確認して、彩りや見た目を綺麗に盛り付けしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者のこだわりを優先して、利用者に選んでもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に同じ食事を食べながら、見守り食べ方を見ながら、さりげなく必要に応じて手伝いしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理のにおいや音を大切に、ユニット内で調理している。配膳後も、意欲が高まるように声かけを行っている。食べる時間もその時々で、利用者のペースで行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量は、十分にとれるように気を付けている。食事やお茶で補えない時は、メイバランスゼリーも活用している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	日中に水分摂取量が少ない利用者は、夜間におきられた時などを利用して、水分をとってもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	職員通しでバランスや調理方法を話し合い、ユニット単位でメニューを決めている。栄養士のアドバイスは受けていない。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒への予防や衛生管理は気を付けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながる事を、研修や勉強会で学び理解している。				毎食後、職員が付き添って口腔ケアを行っており、利用者全員の口腔内の健康状況について把握している。自分で歯磨きができる利用者や義歯外しのみ自分でできる利用者等もいるが、個々のペースに合わせ口腔内の清潔が保てるよう適切な支援に努め、必要時には訪問歯科診療を受けるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に、個別に気を付けるポイントを教えてもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	無理強いしないように、手入れを行っている。ポリデントも活用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会でトイレでの排泄の重要性や、おむつ使用による精神的負担を把握している。				利用者の行動を常に見守りながら、トイレに誘導するよう努めている。トイレには固定式の手すりの他、跳ね上げ式の手すりも設置されており、利用者の状況に応じて使い分けている。おむつ類は状況に応じて使用するものを検討し、少しでも安価で納入してもらえるよう業者と交渉している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事、水分量や、運動不足などの原因及び、便秘が周辺症状に影響することを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	訴えられない利用者の行動をみながら、排泄したい気持ちを予測している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	自己負担でおむつ使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	普段の生活場面を見直し、主治医とも相談して、改善できる点を模索している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の動きや訴えに応じて、行きたい気持ちを予測してトイレの案内をしている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自己負担でおむつ使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。朝と夕のユニット内での申し送りで、どの種類が良いか、変化がある時に検討している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	家族とも状況を共有してもらい、適宜使い分けできるように選んでいる。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	くだものや、ヨーグルト、ヤクルト、センナ茶など、できるだけ自然に出るように取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	毎日入れる状況を作り、入りたい気持ちになっているタイミングで入浴できるように支援している。	◎		○	入浴は緊急時に備えて受診可能な午後の時間帯が中心ではあるが、利用者が希望する時間帯にも入れるよう支援している。最低でも週2回は入浴できるよう努めており、希望があれば1日に2回入浴できるようになっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ入浴できるように、ゆっくり利用者のペースで入浴してもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できている事は見守りや声かけで入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	家族からも自宅での習慣を聞きながら、入りたい気持ちになるよう支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴介助の手順書を参考に、健康状態の把握をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	自宅での様子を本人及び家族へ聞き取り、ホーム内での眠れる時間を把握している。				利用者の生活リズムに合わせて支援しており、夜更かしをする利用者や早朝3時には起床する利用者等、個別ケースに合わせて対応している。利用者個々のリズムで気持ち良く朝が迎えられるよう努めており、薬剤に安易に頼らない支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昨夜の様子や日中の様子を確認しながら、気持ちよく眠れる工夫を検討している。空調や湿度も確認している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤は極力使用しないで、生活リズムが整えるように、日中の過ごし方、体調、水分量などを検討し、往診で主治医に適宜相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	夜間眠れないから寝させない対応は行わず、疲れ具合に応じて休む時間を取り入れている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの要望に応じて、支援している。年賀状は届いた方に利用者名で返事を送っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状にコメントを記入してもらい、書ける能力を把握している。電話も希望があれば、職員が番号を押している。自力で電話できる利用者はいない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスを使用して、部屋で電話できるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	封は開けずに、本人へ渡し、本人へ開けてもらい、希望があれば、代読している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	限られた利用者の家族から電話がかかっている。手紙も限られた家族より届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	不安や混乱が生じないで管理できる範囲に限り、家族と相談して所持、使用してもらっている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。いつでも買い物に行ける事は会話の中で伝えている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持することで、不安や混乱が強くなる場合は、家族と相談しながら、家族が管理するほうが、QOLが高まるか検討している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	常に状況に応じて、本人及び家族と相談して決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	基本的には、預からないようにしていて、ホーム立替で引き落とし、領収書を家族へ送付している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員人数と相談しながら、個別にできるだけ希望に添えるよう取り組んでいる。	◎		○	職員が利用者の思いを汲み取り、家族と協力し自宅に帰れる回数を増やすなど、利用者の意向に沿った支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	朝から夕方までは、施錠しないで、常に出入りできるようにしている。	◎	◎	○	玄関はきれいに整理整頓され花が活けられるなど、清潔感があり気持ちよく感じられいい雰囲気が漂っている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	作り自体が、利用者のイメージしている大正や昭和の雰囲気ではないが、食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。	○	○	○	リビングは明るく清潔で、対面キッチンになっているため、利用者からも食事の支度の様子が見られる等、家庭的な雰囲気になっている。掃除も丁寧に行っており清潔感が感じられる。調理の音や匂いが感じられるなど、生活感があり利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	利用者にとって不快にならないように、配慮している。掃除も丁寧に行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で、安心できる座席があり配慮している。ソファーを置いたり、玄関フロアーや中庭も活用している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないように配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と本人に、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族が持ち込めない時は、職員が付添い荷物を運んでいる。	◎		◎	できる限り、自宅で使っていた馴染みのものを居室に持ち込み、居心地よく過ごしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者が安全に使いやすいよう、手すりや車椅子専用トイレの手すり取替を行っている。			○	利用者が安心して暮らせるよう、廊下の手すりやトイレの車いす用の手すりを使い勝手のいいものにするなど、安全に万全を期して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	全てを排除するのではなく、極力間違いにくい環境にしている。間違っても、さりげなく取り除くなど、自尊心を気づ付けないようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	活動意欲を触発するように、ほうきや、回転モップ、新聞や広告、趣味の品など置いている。犬や猫の本も好評で、頭の体操になるレクの道具も置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	鍵をかける事への弊害を職員全体で理解して、緊急性を除いては、常に施錠しないようにしている。夜間は防犯対策で、自宅と同様に施錠している。また、利用者から施錠をしないと不安が強くなる時は、閉めて開けるをしている。	◎	◎	◎	鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、夜間以外の施錠は行っていない。利用者が自由に外へ出られる環境になっており、その都度職員が様子を見守り、安全を確保しながら支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に十分説明して、納得してもらい利用が始まっている。また、安全確保のため、職員が付添いしている状況を面会時等で感じてもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	玄関に感知センサーを設置して、東通り職員が毎回、玄関を見に来る事を徹底して行っている。利用者の行動を予測して、出たい気持ちの時は、職員が付添い出かけて、落ち着いてもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
（4）健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の情報を共有して、アセスメントに病歴を記載し、把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	身体状況の変化や異常のサインは、カルテや申し送りノートを活用して、早期に発見できるよう努めている。しかし、気づきに差が生じている。心配しすぎる時もある。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	協力病院の西条市民病院へ連絡し常に担当看護師や医師に確認している。通院時にFAXした事も医師からの指示をカルテに閉じている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医の希望を聞いて、大半は協力病院の西条市民病院だが、専門医は併用して通院介助をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の希望を優先して、かかりつけ医と連絡相談を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前に家族へ説明して、通院時に家族も立ち合いできる配慮をしている。通院介助は施設で行い、家族が立ち会えない時は、受診後に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを入院当日に病院の担当看護師へ情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の洗濯物を施設が取りに行くことで、病院の関係者と話す機会が常にあり、情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃の連携はもちろんの事、病院と一緒に仕事以外でも、レクバレーやバトミントンで横の繋がりを密にしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	パート看護師に日頃の様子や、受診した結果など報告し、様態が気になる時は、確認を依頼している。パート看護師不在の時間は、かかりつけ医や外来看護師、休日など病院が休みの時でも、入院担当看護師に相談している。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力病院は夜間でも相談できるように配慮されている。また、同じ事業所内の他施設の看護師も相談に乗ってくれる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	朝昼夕に血圧、脈拍、熱を測定して、状況に応じて血中酸素濃度も測定しているので、変化には気づきやすい。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医師から指示がでた処方内容が詳しく書かれた書類を保管して、薬剤師の説明を聞いている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤師が一包化した薬を指示通り飲んでもらえるように、薬袋の色分けや、本人確認、飲み込み確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の状態と違ってきた場合に、常に副作用が影響していないか、追加された薬など影響がないか確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	長年飲み続けている服薬も、状態の変化が気になる時は、必要性があるが医師と相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。				事業所での看取りは実施していない。重度化した場合、利用者が安全で快適に過ごせる場所等について、家族と一緒には話し合いをしているが、今後は医師等医療関係者等も交え方針を協議するなどの検討を期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	環境面や医師の協力（死亡時の訪問など）が整わない。現状では、看取りができないと判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所前の説明や、状態の変化に応じて、出来る事できない事を十分に説明して、理解してもらっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。グループホームで環境面での改善は考えていない。同じグループ内で支える事や、近隣の施設を提案している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	最後まで責任を持って住み続けられるように、その時々で施設紹介などを説明している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会で知識を学び、昨年度に感染者が1名あった時に、実践で経験して、他のユニットにも経験を共有している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	勉強会で知識を学び、昨年度に感染者が1名あった時に、実践で経験して、他のユニットにも経験を共有している。日々の訓練は出来ていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	愛媛県の情報を元に、往診時に主治医から聞くなど、情報を早く入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	小学校や中学校の情報を、職員から得て、流行を把握している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関に感染予防の足底マットを敷き、面会者に手の消毒とマスク着用をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に日常の様子を伝え、一緒に支えてもらえるよう話をしている。				入居当初や利用者の体調不良時等に家族が泊まり込める環境を整備している。家族には年に数回行事の時に、ユニット毎に一緒に食事をしながら気軽に話し合う機会を設けている。毎月実施している家族への報告は、数か月毎に担当職員が交代することで、様々な職員からの気づきが伝えられるよう工夫している。面会時には家族に必ず声をかけ相談等がいつでもできるよう配慮しており、事業所の運営面のことや職員の異動等についても報告するほか、家族からの要望も聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時は部屋でゆっくりと他者を気にせずに、面会できるよう配慮している。家族の希望に応じて、宿泊される時もある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	△	全体の行事は夏祭りで案内している。単独の施設で、職員が接客できないため、行事は縮小している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	日常の様子を毎月1回、日常生活・ケアプラン実施状況報告書で郵送して伝えている。介護計画作成時は、遠方の家族へ電話して意向を確認している。2か月に1度作成している広報紙も郵送している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	電話や面会時に不安に感じている事を、職員から説明している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	入所後は、家族がしっかりと休息できて、気持ちに余裕が持てるよう支援している。在宅介護で大変と感じていた内容を聞き取り、ホームでの対応を伝え参考にしてもらっている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	運営推進会議参加者へ2か月の報告を行っている。面会時には、職員の異動や退職等を伝えている。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	家族会への参加がほとんど見られないため、行えていない。夏祭り行事の時のみとなっている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	ホームの職員体制と環境の説明を行い、利用者個別に起こり得るリスクを説明し、対策も伝えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	些細な事も報告して、面会時も気軽に話してもらえるように、職員から話しかけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所時の説明を丁寧に行っている。事例なども伝えている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退所の時も経済面や環境面、その時々の身体状況に応じて具体的な説明を行い、本人が安心できる所に住み替えできるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	契約時や変更時に丁寧に内訳を説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーや、地域の公民館で説明する機会を作っている。		○		自治会長の協力のもと管理者が地域行事に参加し、事業所の説明をすることで徐々に地域に認知されてきている。また、近くの中学校の体験授業として、継続的な訪問や交流があり、手紙や手づくりの新聞をもらうなどの関係が築けている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	自治会長代理の近所の方が窓口となり、集会所の集まりに管理者が参加させてもらっている。 ホーム周辺を散歩しながらあいさつをしている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	顔見知りの地域の方が増えるように、あいさつを行っている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。トイレを借りに、近隣の高齢者も立ち寄ってくれる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。トイレを借りに、近隣の高齢者も立ち寄ってくれる。犬の散歩も効果的に感じる。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	のりこ美容室の訪問がら、夏祭りボランティアの協力など、小松中学校生徒の訪問があり、行事の時に協力してもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	小松図書館より毎年、作品依頼があり、出展している。近隣の中学校生徒も毎年大勢来てくれて楽しんでいる。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	ヤマサンセンター（さわらの注文・夏祭りの氷など）、小松図書館、のりこ美容室、ウエス注文は小松のタオル屋に注文など、理解を拡げる働きかけを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	同じメンバーが集まる事が多いが、新規参加者を地域の方から募っている。	◎		○	運営推進会議には利用者や家族、地域の参加者を得ることができている。参加者を増やすため、多方面へ働きかける取組みを積極的に行うことで徐々に参加者が増えており、警察署や消防署などからも参加が得られている。外部評価結果等については、運営推進会議で報告し、防災対策等について会議の参加者に協力してもらっている。会議で出された意見や提案については、極力実践できるよう取り組んでおり、実施後には報告するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	外部評価の後に、報告している。防災対策は何度かテーマとして協力を仰いでいる。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	提案された事を実施して、実施した内容を報告している。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催後に次回予定日と時間を伝えて、メンバーさんから参加しやすい時間を聞いている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録は公表できていない。希望があれば、いつでも見てもらう事はできる。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	名札の裏に理念を入れて、いつでも確認しながら仕事ができるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外部評価前に家族へ理念が記載している書類を送付している。施設内に提示し、運営推進会議で伝えている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、必要な研修など受けられる配慮をしてくれている。				代表者は、男性の管理者や女性のユニットリーダー等、相談相手を自由に選んで気軽に相談できるよう配慮し、職員のストレスの軽減や離職防止に繋がるよう努めている。
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	キャリア段位制度を利用して、働きながらスキルアップできる取組を続けている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、給料面や手当など、特に頑張っている職員へ配慮してもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	○	代表者は外部との交友や研修に費用を惜しまず、行きたい研修に参加できるように予算を入れてくれている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレス軽減に向けて、管理者を集めお酒の場で、話を聞いてくれている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。				現在、欠員補充ができていないため、外部研修にはあまり参加できていないが、全職員が虐待防止に関する内部研修を必ず受講することで、手順や対応方法等について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りで振り返りを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。代表者へは、毎月管理職会で報告している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い点検している結果として、職員が離職する事が多いと感じる。不適切な対応は注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。拘束しない施設として意識している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	朝の申し送りや勉強会、ユニット会で適宜話し合うようにしている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居前から身体拘束の弊害について説明し納得の上で利用してもらい、面会時に状況説明と対策を家族へ説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	成年後見制度については、大まかに管理者から職員へ説明をしているが、深くは理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	管理者から家族へ対象となる制度の説明を行い、相談窓口の紹介や、詳しく説明できる社会福祉士を紹介している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや社会福祉士会、社会保険労務士と相談できる窓口を常に作っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急対応や初期対応の訓練を消防避難訓練時に、消防署立ち合いで行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットが起こる前に、ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットが起こる前に、ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成していないが、相談内容を職員が把握して、改善に向けてユニット会で事例が上がれば検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	内容を確認しながら、管理者が窓口となり、必要に応じて市役所への報告も行っている。会社の代表者や部長、総務部に報告して、会社としても方向性も確認している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	あまり事例がないが、苦情があれば、納得が得られる前向きな話し合いを行うように心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがないので、面会時に個別に会話して話しやすい雰囲気を作っている。			○	利用者が話しやすい雰囲気になるよう、家族の面会時を見計らって利用者と家族から一緒に意見や要望が聞けるよう機会を設けている。管理者は職員とは年2回面接を行っており、意見や要望等を聞くよう努め、業務に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがないので、面会時に個別に会話して話しやすい雰囲気を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	要望や苦情があれば、国保連や市役所が窓口となっている事を契約時以外にも伝える体制はある。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	年に数回、代表者は現場を見に来ている。毎月1回の管理職会議で現状を代表者へ伝えている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年に2回は、面接を行い、利用者本位の支援を確認している。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価はいつでも回覧できるようにしていて、全員で評価する時期は、昨年度より2年に1回となっている。				評価結果等については、運営推進会議で報告している。防災対策については、日頃から地域住民等会議の参加者に協力してもらっており、具体的な意見等をもらうなど、業務の改善に活かせている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	サービス評価の項目に沿って、グループホームらしさに向かってサービスできるように話し合っている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回、初めて地域の方の評価があるので、参考に目標達成計画を作成する。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で、防災対策について報告し、意見を頂いている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	達成目標の取り組み成果は、運営推進会議で報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	火災、風水害を中心にマニュアルを作成して、玄関フロアーに提示している。				地域的に水害が心配であり、過去の避難準備情報が出た時には、消防団の訪問や、地域住民からの声かけ等、支援や協力を得ることができている。避難所として活用してもらえるよう地域に働きかけている他、周辺の民家や店舗等に対して日頃より馴染みの関係がつくれるよう努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	作成している計画書に沿って、避難訓練をしている。主に夜間中心となっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者が点検に入り、消火設備の点検を行っている。非常食はホーム管理者と総務部で管理している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の他事業所の代表者と、年に1回小松中学校で集まりがあり、連携が取れるようにしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の主催する災害避難訓練に職員が参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	年に2回は集会所へ職員が出かけて、ボランティア活動の後で、認知症介護のポイントについて、地域の方と話し合う機会がある。				相談があまりないため、事業所のPRを積極的に行い地域の相談ニーズの集約にも努めるなどの取組みが望まれる。市や他の関係機関等と連携し、認知症カフェ等イベントを開催するなど、地域とのつながりを深めるような取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の方が相談に来られる事があり、対応している。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	地域の集まりは出来ていないが、災害時に避難場所として開放する事を、運営推進会議で提案している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	自社で行っている人材教育関係で、研修を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地域のイベントに職員が参加している。			△	

（別表第1）

サービス評価結果表

サービス評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人　愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	（回答数）	22名	（依頼数）	27名
地域アンケート回答数	7名			

※事業所記入

事業所番号	3890600145
事業所名	グループホーム小松の里
（ユニット名）	（ユニット③）　上通り
記入者（管理者）	
氏　名	伊藤元栄（大森　晋也）
自己評価作成日	平成30年2月3日

［事業所理念］	［前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果］	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
○入所者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。 ○一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。 ○主治医、協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します。 ○地域の人達と交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。 ○市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます。	○ 『風水害発生時に、ご利用者様と職員が安全に避難できる体制を整える事ができる』を目標に、運営推進会議で風水害時の協力をお願いして、近所の住民の方にも助けてもらえるように、自治会の集まりなど、参加させてもらい、協力をお願いした。 結果として、今年の夏に避難準備情報が出た時があり、地域の消防団の方が訪ねてくれたり、天候が回復した後に、地域の方から気にかけてくれた言葉を頂けたりと、緊急時に気にかけてもらえる状況となっていると感じた。また、近隣に高齢者の方々も多く、避難場所まで行くことが難しい地域の方へ、ホームを避難場所として利用して頂ける事も少し認識して頂けている。	とても清潔で整頓されている事業所は、気軽に立ち寄ることのできる雰囲気である。利用者の生活リズムに合わせて職員が支援しており、起床や就寝、食事、入浴のタイミングなどはユニット単位ではなく、それぞれの利用者の希望に沿った対応をしている。開設当初より玄関やユニット入口に鍵をかけないケアを実践し、利用者の外へ出たいという思いに最後まで寄り添っている姿が特徴的である。

評 価 結 果 表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。	◎		◎	多くの利用者の意向は家族から聞き取っており、友人等の面会がある利用者については友人等からも情報収集を行い、意向の把握に努めている。普段の支援の中で聞き取る情報も多く、月1回のユニット会において職員間で情報共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴を家族より聞き、その時の表情を見て、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会の少ない家族もおり、もう少し聞いてみたいと思う所がある。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ユニット会で暮らし方への思いを話し、ケアプランの本人意向に記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	いろいろな職員の意見を聞きながら、決めつけないように把握している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	△	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。面会の頻度にもよるので、情報が集めにくい利用者もいる。			△	独自様式の「私ができること・私ができないこと・私のこだわりシート」を用いて、細かくアセスメントを行っている。また家族へ電話をかけたり、面会時に声をかけるなど、コミュニケーションを図り情報収集に努めているが、面会があまりない家族からの情報はあまり集められていない現状もあるので、こちらから呼びかけるなど、積極的な取組みが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントを行時に、こだわりシートを見直し把握している。出来る事を行ってもらい、過度に手伝わず、出来る事を見極める事に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	その時に対応した職員から、場面で不安や不安定になっている事を聞いている。その都度の記録も夜勤時間は細かく記載できている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等）	◎	その時に対応した職員から、場面で不安や不安定になっている事を聞いている。ユニット会で話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	生活記録に気づきを記載して、把握している。その時の状況や状態を職員間で話し合っている。				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	生活歴や性格も参考に、検討している。家族や知人の面会が少ない方は、聞き取りが出来ていない時がある。			△	家族の希望で入居に至っている利用者が多く、自宅に帰りたいという希望が第一にありながらも、どうすれば事業所で快適に暮らしていけるのか、日々考えてアセスメントを行っているが、情報量が少なく物足りなさを感じるので、利用者が何を求めているのかという視点で、情報の収集に努めて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	できる能力を把握しながら、している事が毎日の生活で多くなるように検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランのニーズへ記載する時に、困っている内容も記載している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	ケアプラン作成前に、本人の思いや意向を確認している。訴えられない利用者の思いが反映されていない時がある。				家族とこまめに連絡や相談を行って介護計画に意見を反映させており、利用者のこだわりやこれまでの習慣を大切にしている。利用者のニーズを考える時には、その根拠として何に困っているからそのニーズが生まれたのかについても介護計画に盛り込むようにしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	面会時に家族へ聞き取りを行い、面会が少ない家族へは、ケアプラン作成時に、電話で意向を確認している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みの関係や、離床時の座席等、心地よいと思ってもらえる配慮をしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ケアプランに家族へ協力してもらう内容を提示している。地域の人たちの協力は得られていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	短気目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。			◎	介護支援専門員が介護計画を作成しており、内容については職員間で共有している。介護計画の短期目標については、達成状況を記録する用紙があり、利用者の日々の達成状況を確認しながら、積極的に取り組めるような優先度の高い項目を2項目程度選んで設定している。具体的な会話の内容や職員の気づきを毎日必ず記録することで、介護計画の内容を職員間で十分に共有できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	短気目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。月に1回の実施した結果を共有して、支援に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録にも、普段と異なる会話や行動などを記載している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録へ職員の気づきや、工夫を記載しているが、職員の気づきが、話合われるが、記録が少ない時がある。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画の期間に見直しをユニット会でしている。			○	利用者の状況に応じて、必要なタイミングで計画の見直しを実施している。大きな変化が見られない場合も、毎月ユニット会議において現状確認を行っている。入院後など心身状態に変化がある時は、現状に合う計画になるよう見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	新たな要望や変化が見られない場合は、介護計画の期間に確認している。ユニット会で毎月1回は確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後の再入所時や、心身状態に変化がある時は、見直しをしている。大きく状況の変化がある時は、暫定プランを作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	ユニット会を基本としているが、朝の申し送り時や、その後のユニットメンバーで適宜話している。全職員が集まる会議は出来ていない。			○	事業所内の多目的ホールに職員が集まって月に1回勉強会を開催しており、その後各ユニットで会議を行っている。緊急性の高い内容については、朝の申し送り時に話し合う等工夫している。また話し合った内容等は申し送りノートに丁寧に記録し、職員間で情報共有できるようにしている。会議に参加できない職員は、会議録を回覧し確認するなど、情報の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換ができるように、茶話会のような感じで行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多くの職員が参加できるように工夫している。日中は難しく、夜間に開催となり、子供さんが小さい職員は参加できない。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を回覧して、申し送りノートも活用している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。			◎	家族からの要望や受診の報告、朝礼での管理者からの伝達事項、日々の支援の申し送りについては、ユニット毎にある申し送りノートに記載している。ノートを確認した職員はサインし、確認漏れがないよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2)日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その時にしたい事を、限られた職員数で、できるだけ叶えられる努力を日々行っている。全員に実施できない日もある。				起床や就寝、食事、入浴の時間は、利用者に希望時間を選んでもらい、臨機応変なケアに努めている。起床が早い利用者にも対応できるよう、早朝5時半より朝食の準備を整えるなど、入居前の利用者の生活リズムを大きく崩すことがないよう配慮している。職員は常に利用者の輪に入っており、食事の時間などテーブルを囲み皆が和気あいあいとなるよう雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	○	入浴、排泄、更衣、食事場面で、選んでもらう機会を作っている。不安や混乱がある利用者へは、好みを職員が勧めている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	不安が大きくならないように、できる限り意向を聞きながら、決めてもらっている。常に傾聴を心掛けている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	○	本人の生活リズムを優先して、ゆっくりと生活できるよう支援している。本人のペースで行っている。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が利用者の輪に入り、気の合う利用者とテーブルを囲み雰囲気づくりをしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップを行い表情の変化を見ながら支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	勉強会や朝の申し送りで、接遇マニュアルを意識して、言葉かけや態度を意識している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。もう少し意識する必要がある。	◎	○	○	法人の接遇マニュアルに沿った指導や研修を組織的に実施し、毎日目標を掲げることで日々の支援の中で常に意識できるよう工夫している。朝礼では目標を全員で唱和し、意識を高めている。気持ちに余裕がない時など、言葉に気をつけないといけない場合もあるので、職員会議等で話し合い皆で振り返る機会を設けるなど、業務の改善に努めて欲しい。居室には、必ずノックし確認してから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	小松の里の心がけ「あたたかく、さりげなく、気くばり目くばり」を意識しながら対応している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	他者から見えないような配慮や、露出が少なくなる配慮をしながら介助している。バスタオルで隠すようにしている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室前にノックを行い、入っても良いか確認してから出入りしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入職時に会社と職員でプライバシー保護の書類を交わしている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介護を行う場面でも、手伝ってもらう声かけや、教えてもらう態度で接している。「ありがとうございます」と手伝ってもらった後に声をかけている。				机の配置等を工夫し、利用者全員が快適に過ごすことができるよう配慮している。座る位置を固定しておく方が落ち着く利用者が多く、状況を見ながら臨機応変に対応している。職員が間に入ることでトラブルを未然に防ぎ、和やかな雰囲気になるよう心がけている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協同できる座席の配慮を行い、支えあう事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。（仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等）。	○	その時の気持ちを考えながら、心地よく関係が良好になるように、支えあう関係ができるように、座席の配慮を行っている。職員と利用者が話しやすい環境を心掛けている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因を考え、双方が安心できるように、声かけを行っている。やわらかく声をかけている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前の面接で、関係を聞き取り、面会時に家族より、関係について情報を得ている。申し送りノートで情報を得ている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前の面接や、居宅ケアマネからの情報提供を参考に、毎日の会話からも、把握している。馴染みの場所へドライブで出かける利用者も数名いる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	住んでいた場所にドライブで外出し、馴染みの散髪屋、化粧品屋、息子宅など、希望される内容に応じて、支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会場所を、本人の居室や談話室など、本人に選んでもらい、お茶を出して居心地良く配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	△	出掛ける頻度に差はあるが、できる限り外出に付き合っている。希望が見られない方も、ホーム周辺の散歩や、屋内でもユニットの外に出る時間を作っている。2階の1階へ降りる支援が少なくなっている。	○	○	◎	外出時に使用できる車が3台確保されており、各ユニットで自由に外出することができる。利用者の状況によって外出先までの距離等を配慮し、お花見等に出かけたり、行きつけの美容室に行ったりしている。重度の利用者も含め、中庭に出て外気浴を行ったり、近くの散歩は日課になっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援は職員と家族以外、出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	春と秋は中庭を中心に、外気浴を行っている。夏と冬はもう少し外気浴をする時間を作りたい。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	外出に頻度の差があるが、訴える方には頻回に、訴えがない方にも、季節によりお花見や紅葉を見に行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会で行動心理症状について理解して、普段と異なる行動が見られた時に、要因を考え取り除く方法を皆で話し合っている。				作業療法士や言語聴覚士の指導のもと、リハビリテーションを目的としたレクリエーションを実施したり、利用者の移動や移乗の時の介助方法について、指導を受けたりしている。利用者には自分のできることはひとりで行ってもらっており、職員がいつも見守り寄り添いながら支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	月に2回、自社のOTとSTが訪問して、セラピストの意見を参考に、日常の生活で運動に繋がる支援を意識している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	△	出来る事や出来そうなことの気づきを、職員同士で話し合い、できるだけ、行ってもらうようにしている。意識はしているが、手伝いすぎる場面も感じている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所前の聞き取りも参考に、手先を使う事なども新たに行ってもらい、把握に努めている。				野菜の下ごしらえや洗濯物畳み、モップ掛け、掃除用雑巾の生地の裁断等、利用者が得意なことを担当してもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できることを、役割として行ってもらっている。食材の下ごしらえや家事仕事につながる事を、レベルに応じて行ってもらっている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	近隣を散歩しながら、すれ違う地域の方とあいさつを行っている。地域への参加が出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	着たい服を着ていただき、着こんでしまう方や肌着を上に着てしまう場合も、さりげなく着替えてもらっている。				入居前からの行きつけの理容室へ通っている利用者もおり、意向に沿った身だしなみの支援ができている。整容の乱れについては無理強いせず、さりげなく整えるよう努めている。意思表示できない利用者には家族から好みの服装などを聞き取り、笑顔でその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	近隣のパーマ屋に希望を伝えて、利用者が好まれる髪型になるよう支援している。2名の利用者は、行きつけの美容院へ送迎している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族に好みを聞いたり、本人に服を見てもらったりして決めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は、利用者がよそ行きと感じている服を選んで、着替えてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。（髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	○	さりげなく綺麗に整えている。間違えていても、無理強いしない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	近所のパーマ屋が馴染みの関係となり、希望を聞きながら散髪してくれている。2名の利用者は、行きつけの美容院へ送迎している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族からも好みを聞き取り、本人が笑顔になるように配慮している。			○	
17	食事を楽しむことの できる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	下ごしらえから、音、匂いなど、食べる前から感じられる生活臭と、見た目や味など大切にしている。				利用者には調理の下ごしらえや後片付けなど、できる作業は一緒に行ってもらっている。利用者のリクエストを聞きながら栄養バランスにも配慮し、ユニット毎に献立を考えている。利用者の誕生日にはちらし寿司等のお祝いメニューにしたり、季節感のある旬の食材や昔懐かしいメニューを取り入れるなど配慮している。茶碗や湯呑、箸等の食器は、利用者が自分で選んだものを使っている。職員も一緒に食事をしながら見守り、必要があればさりげなく介助している。重度な利用者を含め、皆が調理の匂いや音が感じられるよう支援に努めている。栄養士等専門家からのアドバイスを取り入れるなどの取組みが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	◎	ユニットでメニューを考え、リクエストを聞きながら献立を作り、できる方には調理、後片付けを行ってもらえる支援をしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理の下ごしらえや、後片付けを出来る利用者へお願いしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の面接時に聞き取りして、毎日の会話で聞き取りしている。アレルギーのある利用者は別メニューを準備している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	ユニットでメニューを考えて、アレルギーに気を付け、利用者のリクエストも聞いている。行事を感じられるメニューや年に1回の鰆解体なども楽しめている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼･嚥下等の身体機能や便秘･下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等）	◎	嚥下や咀嚼を確認して、彩りや見た目を綺麗に盛り付けしている。状態に応じてミキサー食やトロミ使用を行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者のこだわりを優先して、利用者に選んでもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に同じ食事を食べながら、見守り食べ方を見ながら、さりげなく必要に応じて手伝いしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理のにおいや音を大切に、ユニット内で調理している。配膳後も、意欲が高まるように声かけを行っている。食べる時間もその時々で、利用者のペースで行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量は、十分にとれるように気を付けている。食事やお茶で補えない時は、メイバランスゼリーも活用している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	日中に水分摂取量が少ない利用者は、決まった時間以外でも、間合い間合いで好みの飲み物を用意し、少しずつでも飲めるようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員通しでバランスや調理方法を話し合い、ユニット単位でメニューを決めている。栄養士のアドバイスは受けていない。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒への予防や衛生管理は気を付けている。肉や魚調理のまな板は別にしている。ハイター消毒の徹底をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながる事を、研修や勉強会で学び理解している。				毎食後、職員が付き添って口腔ケアを行っており、利用者全員の口腔内の健康状況について把握している。自分で歯磨きができる利用者や義歯外しのみ自分でできる利用者等もいるが、個々のペースに合わせ口腔内の清潔が保てるよう適切な支援に努め、必要時には訪問歯科診療を受けるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に、個別に気を付けるポイントを教えてもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	無理強いしないように、手入れを行っている。ポリデントも活用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会でトイレでの排泄の重要性や、おむつ使用による精神的負担を把握している。				利用者の行動を常に見守りながら、トイレに誘導するよう努めている。トイレには固定式の手すりの他、跳ね上げ式の手すりも設置されており、利用者の状況に応じて使い分けている。おむつ類は状況に応じて使用するものを検討し、少しでも安価で納入してもらえるよう業者と交渉している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事、水分量や、運動不足などの原因及び、便秘が周辺症状に影響することを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	訴えられない利用者の行動をみながら、排泄したい気持ちを予測している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	◎	自己負担でおむつ使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	普段の生活場面を見直し、主治医とも相談して、改善できる点を模索している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者の動きや訴えに応じて、行きたい気持ちを予測してトイレの案内をしている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	自己負担でおむつ使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。朝と夕のユニット内での申し送りで、どの種類が良いか、変化がある時に検討している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	家族とも状況を共有してもらい、適宜使い分けできるように選んでいる。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	◎	くだものや、ヨーグルト、ヤクルト、センナ茶など、できるだけ自然に出るように取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	毎日入れる状況を作り、入りたい気持ちになっているタイミングで入浴できるように支援しているが、職員のペースになる事がある。	◎		○	入浴は緊急時に備えて受診可能な午後の時間帯が中心ではあるが、利用者が希望する時間帯にも入れるよう支援している。最低でも週2回は入浴できるよう努めており、希望があれば1日に2回入浴できるようになっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ入浴できるように、ゆっくり利用者のペースで入浴してもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できている事は見守りや声かけで入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	家族からも自宅での習慣を聞きながら、入りたい気持ちになるよう支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴介助の手順書を参考に、健康状態の把握をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	自宅での様子を本人及び家族へ聞き取り、ホーム内での眠れる時間を把握している。				利用者の生活リズムに合わせて支援しており、夜更かしをする利用者や早朝3時には起床する利用者等、個別ケースに合わせて対応している。利用者個々のリズムで気持ち良く朝が迎えられるよう努めており、薬剤に安易に頼らない支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昨夜の様子や日中の様子を確認しながら、気持ちよく眠れる工夫を検討している。空調や湿度も確認している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤は極力使用しないで、生活リズムが整えるように、日中の過ごし方、体調、水分量などを検討し、往診で主治医に適宜相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	夜間眠れないから寝させない対応は行わず、疲れ具合に応じて休む時間を取り入れている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの要望に応じて、支援している。年賀状は届いた方に利用者名で返事を送っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	年賀状にコメントを記入してもらい、書ける能力を把握している。自力で電話できる利用者はいない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	コードレスを使用して、部屋で電話できるようにしているが、電話はしていない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	封は開けずに、本人へ渡し、本人へ開けてもらい、希望があれば、代読している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	限られた利用者の家族から電話がかかっている。手紙も限られた家族より届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	不安や混乱が生じないで管理できる範囲に限り、家族と相談して所持、使用してもらっている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望がある利用者は、行きつけの化粧品屋に送迎している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物先の馴染みの店員に協力を得て、買い物と会話が終われば、ホームに連絡してもらい迎えに行っている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持することで、不安や混乱が強くなる場合は、家族と相談しながら、家族が管理するほうが、QOLが高まるか検討している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	常に状況に応じて、本人及び家族と相談して決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	基本的には、預からないようにしていて、ホーム立替で引き落とし、領収書を家族へ送付している。通帳は本人が持ちたい場合は、印鑑のみホーム金庫で保管している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員人数と相談しながら、個別にできるだけ希望に添えるよう取り組んでいる。	◎		○	職員が利用者の思いを汲み取り、家族と協力し自宅に帰れる回数を増やすなど、利用者の意向に沿った支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	朝から夕方までは、施錠しないで、常に出入りできるようにしている。	◎	◎	○	玄関はきれいに整理整頓され花が活けられるなど、清潔感があり気持ちよく感じられいい雰囲気が漂っている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	作り自体が、利用者のイメージしている大正や昭和の雰囲気ではないが、食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。	○	○	○	リビングは明るく清潔で、対面キッチンになっているため、利用者からも食事の支度の様子が見られる等、家庭的な雰囲気になっている。掃除も丁寧に行っており清潔感が感じられる。調理の音や匂いが感じられるなど、生活感があり利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者にとって不快にならないように、配慮している。掃除も丁寧に行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で、安心できる座席があり配慮している。ソファーを置いたり、玄関フロアーや中庭も活用している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないように配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と本人に、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族が持ち込めない時は、職員が付添い荷物を運んでいる。神棚を置いている。	◎		◎	できる限り、自宅で使っていた馴染みのものを居室に持ち込み、居心地よく過ごしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者が安全に使いやすいよう、手すりや車椅子専用トイレの手すり取替を行っている。			○	利用者が安心して暮らせるよう、廊下の手すりやトイレの車いす用の手すりを使い勝手のいいものにするなど、安全に万全を期して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	全てを排除するのではなく、極力間違いにくい環境にしている。間違っても、さりげなく取り除くなど、自尊心を気づ付けないようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	新聞や雑誌は置いているが、危険と思われる物は職員が管理している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	鍵をかける事への弊害を職員全体で理解して、緊急性を除いては、常に施錠しないようにしている。夜間は防犯対策で、自宅と同様に施錠している。	◎	◎	◎	鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、夜間以外の施錠は行っていない。利用者が自由に外へ出られる環境になっており、その都度職員が様子を見守り、安全を確保しながら支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に十分説明して、納得してもらい利用が始まっている。また、安全確保のため、職員が付添いしている状況を面会時等で感じてもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	玄関に感知センサーを設置して、東通り職員が毎回、玄関を見に来る事を徹底して行っている。利用者の行動を予測して、出たい気持ちの時は、職員が付添い出かけて、落ち着いてもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の情報を共有して、アセスメントに病歴を記載し、把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	身体状況の変化や異常のサインは、カルテや申し送りノートを活用して、早期に発見できるよう努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院の西条市民病院へ連絡し常に担当看護師や医師に確認している。通院時にFAXした事も医師からの指示をカルテに閉じている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医の希望を聞いて、大半は協力病院の西条市民病院だが、専門医は併用して通院介助をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人及び家族の希望を優先して、かかりつけ医と連絡相談を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前に家族へ説明して、通院時に家族も立ち合いできる配慮をしている。通院介助は施設で行い、家族が立ち会えない時は、受診後に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを入院当日に病院の担当看護師へ情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の洗濯物を施設が取りに行くことで、病院の関係者と話す機会が常にあり、情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃の連携はもちろんの事、病院と一緒に仕事以外でも、レクバレーやバトミントンで横の繋がりを密にしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	パート看護師に日頃の様子や、受診した結果など報告し、様態が気になる時は、確認を依頼している。パート看護師不在の時間は、かかりつけ医や外来看護師、休日など病院が休みの時でも、入院担当看護師に相談している。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力病院は夜間でも相談できるように配慮されている。また、同じ事業所内の他施設の看護師も相談に乗ってくれる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	朝昼夕に血圧、脈拍、熱を測定して、状況に応じて血中酸素濃度も測定しているので、変化には気づきやすい。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医師から指示がでた処方内容が詳しく書かれた書類を保管して、薬剤師の説明を聞いている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤師が一包化した薬を指示通り飲んでもらえるように、薬袋の色分けや、本人確認、飲み込み確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の状態と違ってきた場合に、常に副作用が影響していないか、追加された薬など影響がないか確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	長年飲み続けている服薬も、状態の変化が気になる時は、必要性があるが医師と相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。				事業所での看取りは実施していない。重度化した場合、利用者が安全で快適に過ごせる場所等について、家族と一緒には話し合いをしているが、今後は医師等医療関係者等も交え方針を協議するなどの検討を期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	環境面や医師の協力（死亡時の訪問など）が整わない。現状では、看取りができないと判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所前の説明や、状態の変化に応じて、出来る事できない事を十分に説明して、理解してもらっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。グループホームで環境面での改善は考えていない。同じグループ内で支える事や、近隣の施設を提案している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	最後まで責任を持って住み続けられるように、その時々で施設紹介などを説明している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会で知識を学び、昨年度に感染者が1名あった時に、実践で経験して、他のユニットにも経験を共有している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会で知識を学び、昨年度に感染者が1名あった時に、実践で経験して、他のユニットにも経験を共有している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	愛媛県の情報を元に、往診時に主治医から聞くなど、情報を早く入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	小学校や中学校の情報を、職員から得て、流行を把握している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関に感染予防の足底マットを敷き、面会者に手の消毒とマスク着用をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に日常の様子を伝え、一緒に支えてもらえるよう話をしている。				入居当初や利用者の体調不良時等に家族が泊まり込める環境を整備している。家族には年に数回行事の時に、ユニット毎に一緒に食事をしながら気軽に話し合う機会を設けている。毎月実施している家族への報告は、数か月毎に担当職員が交代することで、様々な職員からの気づきが伝えられるよう工夫している。面会時には家族に必ず声をかけ相談等がいつでもできるよう配慮しており、事業所の運営面のことや職員の異動等についても報告するほか、家族からの要望も聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時は部屋でゆっくりと他者を気にせずに、面会できるよう配慮している。家族の希望に応じて、宿泊される時もある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	△	全体の行事は夏祭りで案内している。参加する行事が少ない。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	日常の様子を毎月1回、日常生活・ケアプラン実施状況報告書で郵送して伝えている。介護計画作成時は、遠方の家族へ電話して意向を確認している。2か月に1度作成している広報紙も郵送している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	電話や面会時に不安に感じている事を、職員から説明している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	入所後は、家族がしっかりと休息できて、気持ちに余裕が持てるよう支援している。在宅介護で大変と感じていた内容を聞き取り、ホームでの対応を伝え参考にしてもらっている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	運営推進会議参加者へ2か月の報告を行っている。面会時には、職員の異動や退職等を伝えている。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	家族会への参加がほとんど見られないため、行えていない。夏祭り行事の時のみとなっている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	ホームの職員体制と環境の説明を行い、利用者個別に起こり得るリスクを説明し、対策も伝えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	些細な事も報告して、面会時も気軽に話してもらえるように、職員から話しかけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所時の説明を丁寧に行っている。事例なども伝えている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退所の時も経済面や環境面、その時々の身体状況に応じて具体的な説明を行い、本人が安心できる所に住み替えできるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	契約時や変更時に丁寧に内訳を説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーや、地域の公民館で説明する機会を作っている。		○		自治会長の協力のもと管理者が地域行事に参加し、事業所の説明をすることで徐々に地域に認知されてきている。また、近くの中学校の体験授業として、継続的な訪問や交流があり、手紙や手づくりの新聞をもらうなどの関係が築けている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	自治会長代理の近所の方が窓口となり、集会所の集まりに管理者が参加させてもらっている。 ホーム周辺を散歩しながらあいさつをしている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	顔見知りの地域の方が増えるように、あいさつを行っているが、増えているかわからない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。隣近所の方との声かけは少ない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	のりこ美容室の訪問がら、夏祭りボランティアの協力など、小松中学校生徒の訪問があり、行事の時に協力してもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	小松図書館より毎年、作品依頼があり、出展している。近隣の中学校生徒も毎年大勢来てくれて楽しんでいる。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	ヤマサンセンター（さわらの注文・夏祭りの氷など）、小松図書館、のりこ美容室、ウエス注文は小松のタオル屋に注文など、理解を拡げる働きかけを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	同じメンバーが集まる事が多いが、新規参加者を地域の方から募っている。	◎		○	運営推進会議には利用者や家族、地域の参加者を得ることができている。参加者を増やすため、多方面へ働きかける取組みを積極的に行うことで徐々に参加者が増えており、警察署や消防署などからも参加が得られている。外部評価結果等については、運営推進会議で報告し、防災対策等について会議の参加者に協力してもらっている。会議で出された意見や提案については、極力実践できるよう取り組んでおり、実施後には報告するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	外部評価の後に、報告している。防災対策は何度かテーマとして協力を仰いでいる。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	提案された事を実施して、実施した内容を報告している。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催後に次回予定日と時間を伝えて、メンバーさんから参加しやすい時間を聞いている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録は公表できていない。希望があれば、いつでも見てもらう事はできる。				

項目No.	評価項目	小項目	内　容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	名札の裏に理念を入れて、いつでも確認しながら仕事ができるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外部評価前に家族へ理念が記載している書類を送付している。施設内に提示し、運営推進会議で伝えている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、必要な研修など受けられる配慮をしてくれている。				代表者は、男性の管理者や女性のユニットリーダー等、相談相手を自由に選んで気軽に相談できるよう配慮し、職員のストレスの軽減や離職防止に繋がるよう努めている。
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	キャリア段位制度を利用して、働きながらスキルアップできる取組を続けている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、給料面や手当など、特に頑張っている職員へ配慮してもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	○	代表者は外部との交友や研修に費用を惜しまず、行きたい研修に参加できるように予算を入れてくれている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレス軽減に向けて、管理者を集めお酒の場で、話を聞いてくれている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。				現在、欠員補充ができていないため、外部研修にはあまり参加できていないが、全職員が虐待防止に関する内部研修を必ず受講することで、手順や対応方法等について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りで振り返りを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。代表者へは、毎月管理職会で報告している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い点検している結果として、職員が離職する事が多いと感じる。不適切な対応は注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会で毎年定期的に理解できるよう取り組んでいる。拘束しない施設として意識している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	朝の申し送りや勉強会、ユニット会で適宜話し合うようにしている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居前から身体拘束の弊害について説明し納得の上で利用してもらい、面会時に状況説明と対策を家族へ説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	成年後見制度については、大まかに管理者から職員へ説明をしているが、深くは理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	管理者から家族へ対象となる制度の説明を行い、相談窓口の紹介や、詳しく説明できる社会福祉士を紹介している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや社会福祉士会、社会保険労務士と相談できる窓口を常に作っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	すぐ目に付く所にマニュアルを作成して、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急対応や初期対応の訓練を消防避難訓練時に、消防署立ち合いで行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットが起こる前に、ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットが起こる前に、ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは作成していないが、相談内容を職員が把握して、改善に向けてユニット会で事例が上がれば検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	内容を確認しながら、管理者が窓口となり、必要に応じて市役所への報告も行っている。会社の代表者や部長、総務部に報告して、会社としても方向性も確認している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	あまり事例がないが、苦情があれば、納得が得られる前向きな話し合いを行うように心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがないので、面会時に個別に会話して話しやすい雰囲気を作っている。			○	利用者が話しやすい雰囲気になるよう、家族の面会時を見計らって利用者と家族から一緒に意見や要望が聞けるよう機会を設けている。管理者は職員とは年2回面接を行っており、意見や要望等を聞くよう努め、業務に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがないので、面会時に個別に会話して話しやすい雰囲気を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	要望や苦情があれば、国保連や市役所が窓口となっている事を契約時以外にも伝える体制はある。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	年に数回、代表者は現場を見に来ている。毎月1回の管理職会議で現状を代表者へ伝えている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年に2回は、面接を行い、利用者本位の支援を確認している。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価はいつでも回覧できるようにしていて、全員で評価する時期は、昨年度より2年に1回となっている。				評価結果等については、運営推進会議で報告している。防災対策については、日頃から地域住民等会議の参加者に協力してもらっており、具体的な意見等をもらうなど、業務の改善に活かせている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	サービス評価の項目に沿って、グループホームらしさに向かってサービスできるように話し合っている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回、初めて地域の方の評価があるので、参考に目標達成計画を作成する。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で、防災対策について報告し、意見を頂いている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	達成目標の取り組み成果は、運営推進会議で報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	火災、風水害を中心にマニュアルを作成して、玄関フロアーに提示している。				地域的に水害が心配であり、過去の避難準備情報が出た時には、消防団の訪問や、地域住民からの声かけ等、支援や協力を得ることができている。避難所として活用してもらえるよう地域に働きかけている他、周辺の民家や店舗等に対して日頃より馴染みの関係がつくれるよう努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	作成している計画書に沿って、避難訓練をしている。主に夜間中心となっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者が点検に入り、消火設備の点検を行っている。非常食はホーム管理者と総務部で管理している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の他事業所の代表者と、年に1回小松中学校で集まりがあり、連携が取れるようにしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の主催する災害避難訓練に職員が参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	年に2回は集会所へ職員が出かけて、ボランティア活動の後で、認知症介護のポイントについて、地域の方と話し合う機会がある。				相談があまりないため、事業所のPRを積極的に行い地域の相談ニーズの集約にも努めるなどの取組みが望まれる。市や他の関係機関等と連携し、認知症カフェ等イベントを開催するなど、地域とのつながりを深めるような取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の方が相談に来られる事があり、対応している。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	地域の集まりは出来ていないが、災害時に避難場所として開放する事を、運営推進会議で提案している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	自社で行っている人材教育関係で、研修を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地域のイベントに職員が参加している。			△	